

早生温州の成熟は平年より進んでいます。
完全着色した果実から減酸を確認し、順次収穫しましょう！

令和3年10月の気象

令和3年10月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1～第3半旬が平年より高く、第4～第6半旬は平年より低く推移した。月平均気温は18.4℃で平年とほぼ同じ、前年より0.9℃高かった。

降水量は第1、第5、第6半旬で平年より多く、第2～第4半旬は平年より少なかった。月合計は295mmで、平年の108%、前年の121%であった。

日照時間は第1、第2、第5、第6半旬で平年より多く、第3半旬は平年並み、第4半旬は平年より少なかった。月合計は159時間で、平年の115%、前年の130%であった。

10月は全体的には気温は平年と同程度、降水量、日照時間は平年よりやや多かった。

表1 令和3年10月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	21.9	20.6	20.7	143	43	7	31	21	25
2	22.5	19.3	17.5	9	71	192	30	21	7
3	20.7	18.9	19.8	5	32	9	20	22	14
4	16.5	17.7	14.4	27	45	34	16	22	8
5	13.6	16.9	16.8	52	45	4	27	23	28
6	15.3	16.2	15.6	59	40	0	34	29	40
平均/計	18.4	18.3	17.5	295	274	244	159	138	122

2 果実及び樹の生育

10月30日における調査園の果実生育状況を表2に示した。横径は「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ5.1cm、6.9cm、6.9cmで、「興津早生」は平年より小さく、「大津4号」と「青島温州」ではほぼ平年並みであった。

縦径は「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ4.0cm、4.7cm、4.8cmで、「興津早生」は平年より小さく、「大津4号」と「青島温州」ではほぼ平年並みであった。

果形指数は、「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ1.3、1.5、1.4で、いずれも平年並みであった。

今年度は「興津早生」が小玉傾向である。

表2 果実の生育（令和3年11月1日）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
興津早生	三芳地区	5.3	6.5	6.8	4.0	5.1	5.1	1.3	1.3	1.3
	千倉地区	5.7	6.2	5.7	4.3	4.7	4.4	1.3	1.3	1.3
	暖地園研	4.4	6.7	6.9	3.6	5.1	5.4	1.2	1.3	1.3
	平 均	5.1	6.5	6.5	4.0	5.0	5.0	1.3	1.3	1.3
大津4号	三芳地区	6.4	7.0	6.9	4.4	5.0	4.9	1.5	1.4	1.4
	千倉地区	6.6	7.1	7.3	4.5	4.8	4.9	1.5	1.5	1.5
	暖地園研	7.7	7.4	7.2	5.1	5.0	4.9	1.5	1.5	1.5
	平 均	6.9	7.2	7.1	4.7	4.9	4.9	1.5	1.5	1.5
青島温州	三芳地区	6.4	7.0	6.9	4.5	5.0	5.0	1.4	1.4	1.4
	千倉地区	6.7	6.9	6.9	4.5	4.8	4.9	1.5	1.4	1.4
	暖地園研	7.7	7.2	7.1	5.5	5.0	5.0	1.4	1.4	1.4
	平 均	6.9	7.0	7.0	4.8	4.9	5.0	1.4	1.4	1.4

注1) 各地点の各品種の値は40果の平均とした
 ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した
 2) 果形指数は、横径/縦径とした

「興津早生」の果実品質

「興津早生」の果実品質を表3に示した。

着色程度は、3地区の平均で7.9であった。いずれも平年及び前年より高かった。
 糖度は、3地区の平均で9.9であった。三芳地区と暖地園研では平年及び前年より高く、千倉地区ではほぼ平年及び前年と同程度であった。

酸度は、3地区の平均で0.72であった。いずれも平年及び前年より低かった。

甘味比は、3地区の平均で14.3であった。いずれも平年より高かった。

果肉歩合は、3地区の平均で81.2%であった。いずれもほぼ平年及び前年と同程度であった。

表3 早生温州「興津早生」の果実品質（令和3年11月1日）

調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
三芳地区	7.4	6.7	7.2	11.0	9.5	9.3	0.64	0.96	1.00	17.5	10.6	9.4	82.6	81.4	85.9
千倉地区	7.7	7.2	7.6	9.4	9.7	9.8	0.77	1.10	0.79	12.9	9.1	13.4	77.7	82.3	83.3
暖地園研	8.5	6.9	6.7	9.4	8.8	8.7	0.76	1.01	0.85	12.6	9.2	10.6	83.3	82.0	84.2
平 均	7.9	6.9	7.1	9.9	9.3	9.2	0.72	1.02	0.88	14.3	9.6	11.1	81.2	81.9	84.5

注1) 平年値は平成12~令和2年の平均値
 2) 甘味比=糖度/酸度
 3) 果肉歩合=(果肉重/1果重)×100

11月の栽培管理

(1) 早生温州の収穫・予措

品質を揃えるため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから10日後に、8分着色以上のものを収穫する。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鋏を用いる。採収容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり分量で6、4、6kg施用する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には、収穫後直ちに液肥を散布する。

(3) 病虫害の防除

貯蔵病害である青かび病・緑かび病の予防には収穫前日までにベフラン液剤25(2000倍液)※等の殺菌剤の散布を行う。

ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。

※早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意する。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>